

令和6年度一関市産業振興会議 会議録

- 1 会議名 令和6年度一関市産業振興会議
- 2 開催日時 令和7年2月12日（水） 午後4時から午後5時30分まで
- 3 開催場所 一関市役所 3階特別会議室
- 4 出席者
 - (1) 会長 佐藤善仁市長
 - (2) 委員 佐藤一則委員、小山隆人委員、小岩邦弘委員、佐々木賢治委員
 - (3) 関係団体 岩本幸一いわて平泉農業協同組合参事、
石川勝徳一関地方森林組合企画管理部長、
船山賢治一関商工会議所専務理事、
菅原清忠一般社団法人一関市観光協会事務局長
 - (4) 事務局 小野寺正寿商工労働部長、小野寺啓農林部長、
伊藤晃工業振興課長、千葉功一工業振興課工業振興係長

5 議 題

- (1) ものづくり人財の育成・確保・活躍に係る包括連携に関する事業展開について
- (2) 地域外からの一関市への移住状況について

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者 なし

8 審議内容

(1) 会長挨拶

産業振興会議なるものの概要を私から申し上げます。市内の農業、林業、商工業、観光を振興する団体のトップの方々に組織をしております。条例では、地域産業の振興に関する基本的な施策についての重要事項を調査審議すると規定されております。その象徴的な施策は三つほどございます。

一つは、地域産業基盤及び環境の整備改善に関する施策。もう一つは、地域産業に関する調査及び情報の収集提供等に関する施策。もう一つは人材育成及び担い手づくりに関する施策、ということで平成22年度から立ち上がって昨年度まで32回開催しています。

本日の会議でありますけれどもお手元に次第がございますが、実際の協議事項としては2点ございます。

一つ目は、ものづくり人財の育成・確保・活躍に係る包括連携に関する事

業展開についてです。もう一つは、地域外からの一関市への移住状況について話題にしながら皆様方からこの先のことをお聞かせいただければと思っております。

限られた時間ではございますが有意義な会議となりますことをお願い申し上げます。

(2) 協議

ア 座長の選任について

座長の選任について、会長である市長が互選により選任された。

イ ものづくり人財の育成・確保・活躍に係る包括連携に関する事業展開について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

会 長 これまでの活動の中に両磐インダストリアルプラザ（以下、「R I P」という。）の市内技術系高校保護者説明会がある。同じことが工業高校と千厩高校にもある。これは必要だと思っていた。私はこの3年間、市内の高校8校と短大などに行って、地元で暮らす、地元で働くことの優位性について数字を交えながら話しているが、3年前に学校を回って話した時に、高校生にいくら話しても足りないという限界を感じた。保護者にも説明を聞いて欲しい。保護者と高校の進路指導の現場が揃う必要があると思う。高校の先生方と保護者と本人たちに言わないと駄目だなと感じ、R I Pと話をし、工業高校の生徒と保護者を集めて欲しいと話した。例えば、R I Pでも企業の説明会を開催していたので、そこに保護者も加えて始めた。

委 員 これは継続してやるしかない。今年は工業系だけで行ったが、他の高校の保護者も呼んで開催するべきだ。6月の就職説明会のよう
に開催できれば良いと思う。

会 長 時期については2月ではないと思う。1・2年生になったばかりの春に行いたい。時期を早め、対象校を増やして行いたい。生徒に話す内容と保護者に話す内容は微妙に違うが、生徒と保護者への説明の時間がとれるのであれば、一緒にやる。

委 員 今は全部の職種で人材が不足している。市長が高校生に対して一生の収入や支出、ふるさとの良さを話していただくことは非常に良いことだ。学校を卒業したらすぐに地元へ来るのかということではなく、そういうことも一つの考えとして今植えつけていただくと、

いつかは故郷を見直す機会があるのではないかなと思う。このことを続けていただきたいし、保護者の皆さんにお話をしているとのことで、それは後でとても実になるのではないかと期待をしている。

委員 学校卒業して市外に出る方々について、進学以外で出られる要因などは把握しているか。

会長 総合計画で中高生を対象にしたアンケートを行っており、その中で、こちらには希望する仕事がないとか、収入が高い方へ行くとか、市外の方が遊ぶところが多いなどといった内容である。

委員 会社の説明会や企業訪問をしてもらうことは何よりだ。実際に見るということだと思うが、そういう仕掛けはとても良いのではないかと思う。

会長 資料に記載のテクノロジーとサイエンスだが、小中学校からそういったことをキャリア教育という枠組みの中でやっている。仕事をするとはどういうことなのかとか、「一関学」的なことを教育委員会としてやっている。

委員 それは大事だと思う。社会でもいろいろなカリキュラムがあり、まさに生涯学習を含めたような教育方針でやっているが、体験も含めて高校生だけでなく、近い将来に向けてもう少し対象の年齢を下げても良いのではないかと思う。

委員 職業訓練校では、どういう方々が学ばれているのか。

事務局 メインは長期入学生で、2年から3年間受講する。例えば、高校を卒業して建築会社に就職した方が建築の基礎から実践について学んでいる。また、塗装や排水管の技術を学ぶことができる。企業に在職しながら、新しい学びをするリスキリングだが、こういったところの需要が出てくるのではないかと考えており、企業で新しい若い人を雇えば良いが、そうならない場合は今いる職員の方に新しい技術を学んでもらうといった取組が必要になってくるかと考えている。

(3) 地域外からの一関市への移住状況について（報告）

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 空き家バンクの登録数は現在どのくらいか。実際の空き家の数から市の空き家バンクに登録しているものの割合がわかれば教えていただきたい。

事務局 今現在で市内80件くらいの登録がある。空き家バンクを使って移住してきた方は、去年の実績で11件あった。ただ、市内の方の利用も含まれているため11件の全てが移住ではないようだが、空き家バンクの仲介件数は11件だった。一般的な不動産との違いは、家財道具等が残ったままでも空き家バンク登録ができるということで、そこが一般的な不動産の貸し借りや売買とは違うところである。逆にその家財等があることによって、なかなか利用者が見つからないという側面もある。

委員 一関市に移住してもらいたいという施策をお願いしていくときに、一関に縁がない方と一関を知らない方がいる。誰に向かって一関へ移住するための事業を発信していくのかということ、やはり何か一関に関係のある方に照準を合わせた呼びかけをした方が能率的に良いのではないかと思う。市長が市内の学生に向けて講話をしているが、意外と後で効いてくると思う。親にとっては、市外に子供を出すのが、一関に土地があって住む場所があって働くところがあれば、本当は自分たちの側に置いておきたいというのが心情である。そういったことへの支援策として、一関にゆかりがある方が留まるような施策があれば親としてもありがたいことだと思う。

会長 一昨年くらいから首都圏における旧市町村単位での一関市内高校の同窓会とふるさと会に一生懸命通っている。行って話してきているが、やはりそこもなかなか限界だなと思っている。私はそこに行き始めてから、「若い人を入れていきましょう」と言っている。さすがにふるさと会に若い人といってもなかなか入会できないが、高校の同窓会には若い人が来るようになった。ただ、やはりそれだけでは足りなくて、今度、首都圏に一関のネットワークを作ろうと思う。一関の出身者や一関で稼いだことがある人、例えば転勤などで稼いだことがある人、一関ではなくても一関の学校のOBがいる。そういった人たちのネットワークを首都圏に作ろうと思っており、去年から準備を始めたが、新年度は少し拡大しようと思っている。

委員 二地域居住を一生懸命やっているが、それを見据えた市の施策は何かあるか。

会長 関係人口でいう二地域居住は、ワーケーションという観光のようなものがあつたが、観光ではないワーケーション、ワーキングホリデーのようなものがあり、都市部で働いている人が土日や長期、ちょっと

した休みに地方で、観光分野でやっている人たちと違うことをやっていくもの。都市部で働いている人たちが、土日などちょっとした休みの日に地方に来て、普段と違うことをやっているが、観光ではなく違うことをやる。そういった畑が地方にはある。それが、言ってみれば移住定住というものの現役版である。移住定住者は退職した人たちが第二のすみかを設けるようなことだが、ずっと現役で息抜きのために行ったり来たりというようなものである。

9 担当課 商工労働部工業振興課